

「空飛ぶ円盤（Flying Discs）」関連公文書 日本語訳

原資料：1947年8月～12月、アメリカ陸軍航空軍（AAF）／航空機材司令部（AMC）等の内部通信文書（機密解除済み、指定解除権限番号 NND 700188）。

本資料は正式な内容を持つ書簡・分析文書のみを翻訳し、事務的なルーティング用紙・受付カード等の重複断片は省略した。原文はタイプ打ち・手書きの混在するスキャン文書であり、一部判読困難な箇所は文脈から補って訳出した。

翻訳作成日：2026年9月10日

① FBIによる目撃者身元調査の要請

日付：1947年8月5日 宛先：陸軍参謀本部 情報部 情報グループ長 差出：航空参謀次長付 航空情報要求課

件名：「空飛ぶ円盤」の特定目撃者の経歴に関するFBI調査の要請

ファイル区分：333.5（調査） 様式：メモ

※本文書は簡潔な受付記録で、詳細本文は現存資料に含まれていない。「空飛ぶ円盤」の目撃者の身元・経歴についてFBIに調査を依頼したという事実のみが記録されている。

② 空飛ぶ円盤現象に関するルーティング文書（照会）

日付：1947年8月22日 宛先：航空参謀次長（研究開発担当）

差出：AC/AS-2 航空情報要求課 収集班 ギャレット中佐

件名：空飛ぶ円盤現象

- 信頼性・確度の高いものとして選定した「空飛ぶ円盤」の目撃報告を詳細に検討した結果、その外見にはいくつかの共通する特徴があることが判明した。
- この件についてさらに調査を進める前に、当課は次のような特徴を持つ陸軍航空軍の研究計画が現在進行中でないことの確認を求める。それによって、最近の「空飛ぶ円盤」の"謎"が合衆国由来のものではないと想定できるようにしたい。
 - a. 表面は金属質——少なくとも金属製の外皮を持つことを示している。
 - b. 航跡が観測される場合、それはロケットエンジンの排気に似た、薄い青褐色の靄である。固体燃料ロケットとは異なり、ある観測ではこの噴射が絞られる（スロットル操作されている）ように見えたとのことで、液体燃料ロケットエンジンの可能性を示している。
 - c. 形状については、すべての観測で円形、あるいは少なくとも楕円形であり、底面は平らで上面はやや丸みを帯びている（ドーム状）とされている。
 - d. 大きさの推定では、高度10,000フィートを飛行するC-54型機またはコンステレーション型機とほぼ同程度とされている。
 - e. 一部の報告では、飛行軸に対して対称に、後方に2つの突起（タブ）があると記述されている。
 - f. 3機から9機で編隊を組んで飛行する報告があり、速度は常に300ノットを超えている。
 - g. 飛行中、円盤は左右に振動する動きを見せており、蛇行しているようにも見える。

ロバート・テイラー3世 大佐、航空隊
航空情報要求課 収集班長 AC/AS-2

③ ②への回答（該当する研究計画はない旨の確認）

日付：1947年8月29日 宛先：航空情報要求課 AC/AS-2 収集班 差出：航空参謀次長（研究開発担当）

件名：空飛ぶ円盤現象

陸軍航空軍には、コメント第1号に記載された特徴を持つ研究計画は存在しない。

承認：カーチス・E・ルメイ 少将、アメリカ陸軍
航空参謀次長（研究開発担当）

※本回答には、AFDRE各部門（担当者名は判読困難）の副署が付されている。

④ 円盤目撃報告ファイルの送付（スパーツ将軍名代）

日付：1947年9月8日

宛先：司令官（航空機材司令部） ライト・フィールド、デイトン、オハイオ 宛先部署：T-2

差出：航空参謀次長付 情報要求課

件名：空飛ぶ円盤の目撃報告について

1. ローディング氏との口頭での取り決めに従い、当室が保管している「空飛ぶ円盤」の目撃報告の全ファイルを同封する。
2. 本ファイルを送付するのは、貴司令部にこれらの目撃記録の写しを提供するため、複写（フォトスタット）を作成していただくためである。
3. 複写作成の際は、当室用にも1部余分に作成し、原本返却時に併せてご返送いただければ幸いである。
4. 本ファイルおよび複写は、できるだけ早く当司令部（宛先：AC/AS-2 航空情報要求課 収集班）宛に返送されたい。

スパーツ将軍の命により

ダグラス・W・アイズマン 中佐、航空隊
航空情報要求課 執行官 航空参謀次長付

⑤ 「空飛ぶ円盤」に関する航空機材司令部（AMC）の見解（1947年9月23日付）

日付：1947年9月23日

宛先：陸軍航空軍司令官 ワシントンD.C.25 宛先：ジョージ・シュルゲン准将（AC/AS-2）

差出：航空機材司令部（ライト・フィールド、デイトン、オハイオ）

本書簡は、いわゆる「トワイニング・レター」として知られる、空飛ぶ円盤現象に関する米空軍の最初期の公式見解を示す歴史的文書である。

1. AC/AS-2からの要請に基づき、いわゆる「空飛ぶ円盤」に関する当司令部の検討済みの見解を以下に示す。この見解は、AC/AS-2が提供した尋問報告データ、およびT-2（情報部）と航空機研究所・エンジニアリング部門T-3の職員による予備的研究に基づいている。本見解は、航空工科大学、情報部T-2、エンジニアリング部門長室、およびエンジニアリング部門T-3傘下の航空機・動力装置・プロペラ各研究所の職員による会議で取りまとめられた。
2. 見解は以下のとおりである。
 - a. 報告されている現象は実在するものであり、幻覚や架空のものではない。
 - b. 円盤にほぼ近い形状の物体が存在し、その大きさは人工の航空機に匹敵するほどのものと見られる。
 - c. 一部の事例は、流星などの自然現象によって引き起こされている可能性がある。
 - d. 報告されている飛行特性——極めて高い上昇率、機動性（特にロール方向）、友軍機やレーダーに探知・接触された際に回避的とみなされる行動——から、これらの物体の一部は、有人操縦、自動制御、または遠隔操縦のいずれかによって制御されている可能性が考えられる。
 - e. 物体に共通するとみられる外観の特徴は以下のとおりである。
 1. 金属質、または光を反射する表面。
 2. 航跡がない場合が多いが、物体が高性能な運転状態にあったとみられる少数の事例では航跡が見られた。
 3. 円形または楕円形で、底面は平らで上面はドーム状。
 4. 3機から9機による、よく統制された編隊飛行の報告が複数ある。
 5. 通常、音は伴わないが、3件の事例ではかなり大きな轟音が聞こえたとされる。
 6. 水平飛行時の速度は通常300ノットを超えると推定される。
 - f. 現在の合衆国の知見の範囲内であっても——大規模かつ詳細な開発が行われるならば——上記(e)の一般的特徴を持ち、亜音速で約7,000マイルの航続距離を有する有人航空機を製作することは可能である。
 - g. この方向での国内における開発は、極めて高額かつ時間を要し、現行の諸計画に大きな負担をかけるものとなる。したがって、もし実施の指示が出される場合は、既存の計画とは独立に立ち上げるべきである。
 - h. 以下の点についても十分な考慮が必要である。
 1. これらの物体が国内由来——すなわちAC/AS-2や当司令部の知らない、高度な機密計画の産物である可能性。

2. これらの物体の存在を疑いなく証明できるような、墜落回収物などの物理的証拠が欠如していること。
3. 何らかの外国が、我々の国内の知見の外にある、核動力かもしれない推進方式を有している可能性。
3. 以下を勧告する。
 - a. 陸軍航空軍本部が、本件の詳細な調査に対して優先度・秘密区分・コードネームを付与する指令を発し、入手可能かつ関連するすべてのデータの完全な一式を作成させ、陸軍・海軍・原子力委員会・統合研究開発委員会（JRDB）・空軍科学諮問グループ・NACA・RANDおよびNEPA各計画に対し、意見・勧告を求めるため提供すること。データ受領後15日以内に予備報告を、その後は調査の進展に応じて30日ごとに詳細報告を提出すること。データの完全な相互交換を行うこと。
4. 具体的な指令を待つ間、AMCは現有の資源の範囲内で調査を継続し、現象の性質をより明確にする。詳細な必須情報要素（EEI）は、正規の系統を通じて伝達するため直ちに作成される。

N・F・トワイニング 中將、アメリカ陸軍
司令官

※本状には全く同一内容の写し（複数のコピー、うち1通には「本状は以下により調整済み：ムーア大佐（航空機研究所長）、ディッキー氏（プロペラ研究所長代理）、パット将軍（工学部門長）、ミンティ大佐（動力装置研究所長代理）、ブレントノール将軍（T-3）」との手書き注記あり）が原資料内に複数含まれているが、内容は同一のため本訳では1回のみ掲載した。

⑥ 日本のレーダー基地における目撃情報の照会

日付：1947年9月24日 宛先：陸軍航空軍司令官 ワシントンD.C. 宛先：AC/AS-2 ギャレット中佐
差出：航空機材司令部

件名：空飛ぶ円盤

日本のレーダー基地による「空飛ぶ円盤」の飛行目撃が報告されているとのことで、これに関して入手可能なすべての情報を当室に提供されたい。本件は、1947年9月5日にシュルゲン准将室で開催された会議（T-2代表のローディング氏が出席）において、チャールズ・キャロル博士が言及したものである。

H・M・マッコイ 大佐、航空隊
副司令官（情報担当、T-2）

⑦ 「ローディング式空飛ぶ円盤」図面の送付とホルテン兄弟の全翼機資料

日付：1947年9月24日 宛先：陸軍航空軍司令官 差出：航空機材司令部 TSNAD-2B

件名：「空飛ぶ円盤」

1. 本日付のマクドナルド少将とH・M・マッコイ大佐（T-2、AMC）との電話会談を受け、「ローディング式空飛ぶ円盤（Loedding Flying Disc）」と題する図面（型式番号LD-2）の写しを本状に添付する。特許権が関係するため、本図面を閲覧した全員の署名と日付を図面上に直接記録し、記録を残すよう求める。
2. 本図面はその目的を終えたら特許記録として正式に保管するため、AMC特許部門に引き渡せるよう、当室に返却されたい。
3. あわせて、王立航空機研究所（RAE）によるテクニカルノート「AERO 1703」（ホルテン兄弟による無尾翼機について記述したもの）の報告書も同封する。いわゆる「空飛ぶ円盤」事件との関連で注目に値すると考えられる、ホルテン兄弟の先見性ある発想と業績について、以下の箇所を参照されたい：5ページ4・6段落／6ページ1・7段落／26ページ3・10段落／27ページ12段落／28ページ1～5段落／54ページ、ホルテン「パラボラ」の写真。

（続き・別状）

7. 69ページ：ホルテンVIII型について。
8. 71・72ページ：ホルテンIX型各バージョンの写真。
9. 74ページ：「パラボラ」の図面。

本資料もその目的を終えたら返却されたい。

4. モスクワ駐在アメリカ陸軍武官からの1947年6月9日付の最近の報告によれば、ホルテンVIII型設計（6発推進式、翼幅131フィート、総重量約33,000ポンド）に直接的または間接的に基づく航空機1,800機が、爆撃機部隊用としてソ連で製造中とのことである。ただし、ロシア版はジェット推進であるとされる（参照報告番号：V-32291-8）。

5. 同封の T-2報告書「ホルテン兄弟が設計したドイツの全翼機」（番号F-SU-1110-ND）についても、必要であれば貴部署にて保管されたい。

H・M・マッコイ 大佐、航空隊
副司令官（情報担当、T-2）

※これはいわゆる「空飛ぶ円盤」の正体について、ドイツのホルテン兄弟による全翼（無尾翼）機の技術が関係しているのではないかという、当時の仮説の一つを示す文書である。

⑧ マーチャント夫人の「空飛ぶ円盤」理論について

日付：1947年9月29日（10月13日付で転記）

宛先：カートランド基地（アルバカーキ、ニューメキシコ州）司令官 宛先：ハワード・G・バンカー大佐

差出：航空機材司令部 副司令官（情報担当、T-2） マッコイ大佐

件名：「空飛ぶ円盤」

1. ブレントノール将軍が最近ラスベガス訪問中に、ニューメキシコ州サンタフェ在住のマデリン・グウィン・マーチャント夫人という人物から連絡を受けた。同夫人は「空飛ぶ円盤」に関する独自の説とも言うべき理論を語ったという。
2. 同夫人の理論によれば、「空飛ぶ円盤」はメキシコ中央部にある、ロシアが運営する研究施設から発射されているとのことである。彼女の主張では、それらは合衆国内の重要な原子力・航空機関連施設への照準を定めるために発射されているという。
3. ブレントノール将軍は、本件が工学的な事案ではないため、マーチャント夫人への尋問にこれ以上の関心はないとしている。ただし、もし航空機材司令部T-2がこの種の尋問を主導したいのであれば、ラスベガスにいる本件に詳しい大佐の氏名・住所を確認するため、ハワード・バンカー大佐に連絡すべきと勧告している。ブレントノール将軍の提案により、マーチャント夫人への直接の接触は行わない方針である。
4. したがって、上記の大佐の氏名・住所を、しかるべき対応を取れるよう、できるだけ早く当室に提供いただきたい。

⑨ ⑧への回答（ギー中佐の特定）

日付：1947年10月2日 宛先：司令官（航空機材司令部） 宛先：T-2 差出：カートランド基地 バンカー大佐

件名：「空飛ぶ円盤」（1st Ind／第1次回答）

1. 第3項で言及されている将校は、ハーバート・C・ギー中佐（軍番0-19717）であり、本文書にある「ラスベガス」ではなく、かつてロスアラモスの司令官を務めていた人物である。ギー中佐は現在、ワシントンD.C.の工兵隊本部・民間工事部に配属されている。
2. ロスアラモスにおけるギー中佐の後任者は存在せず、また、マーチャント夫人の理論について、直接聞き取りを行ったAMCのブレントノール准将以上の情報を持つ人物がこの地域にいるという情報も特にない。

ハワード・G・バンカー 大佐、航空隊

⑩ 添付資料の送付（マーチャント夫人関連）

日付：1947年10月6日ごろ（10月8日付1st Ind付き） 宛先：陸軍航空軍本部 宛先：AC/AS-2

差出：航空機材司令部 ギャレット中佐

件名：「空飛ぶ円盤」（1947年9月24日付基本書簡の関連）

参照：A-2ファイル内添付資料の写し。（本状は簡潔な送付状であり、要求された情報を添付する旨のみが記されている。1947年10月8日付の1st Indにおいて、基本書簡で要求された情報が添付されたことが記録されている。）

⑪ ギー中佐への聞き取りの提案とブレントノール將軍の所感

日付：1947年10月13日 宛先：陸軍航空軍参謀総長 宛先：AC/AS-2

差出：航空機材司令部 TSNAD-2B ギャレット中佐

件名：「空飛ぶ円盤」

1. 添付の各通信文書は自明の内容であり、本件に関するさらなる情報を得るために取られた対応を示している。ハーバート・C・ギー中佐からの協力は、マーチャント夫人の理論についてさらに調査する正当性を判断するため、彼女の社会的立場や人物像に関するものであった。
2. ギー中佐がワシントンD.C.へ転属になったことを踏まえ、AC/AS-2本部の担当者が同中佐に連絡・聞き取りを行うことを提案する。
3. ブレントノール將軍によれば、マーチャント夫人は非常に話好きで、情報上の問題解決に協力するというよりも、むしろ個人的な事業の宣伝に熱心な様子であったという。
4. したがって、本件をできるだけ早く終結させるため、マーチャント夫人へのさらなる尋問対応について、コメント・提案をいただければ幸いである。

⑫ マーチャント夫人の件の終結

日付：1947年10月22日（10月28日付1st Ind付き） 宛先：航空機材司令部司令官 宛先：T-2

差出：陸軍航空軍本部 アイズマン中佐

件名：（前号に同じ）

1. 当本部の担当者が、ブレントノール将軍に伝えられたマーチャント夫人の「空飛ぶ円盤」理論について、ハーバート・C・ギー中佐に連絡を取った。
2. マーチャント夫人への尋問は行わず、本件を終結とすることを勧告する。

（1st Ind、1947年10月28日：空軍長官の命により、上記勧告のとおり対応する旨、正式に指示。）

⑬ 新聞記事の送付（シアトルの事件・スペインの兵器開発報道・アラスカの目撃）

日付：1947年11月18日 宛先：合衆国空軍参謀総長 宛先：ジョージ・ギャレット・ジュニア中佐

差出：航空機材司令部 TSNAD-2B

件名：「空飛ぶ円盤」

1. 同封の新聞切り抜きを、情報および所見をいただくために送付する。シアトルで報告された事件は1947年11月12日付「デイトン・ジャーナル」紙に掲載されたもので、可能であれば追跡調査すべきと考える。
2. ライオネル・シャピロによる、スペインで開発中とされる戦争兵器に関する記事は、国内の主要各紙に広く掲載されたようである。この記事の重要性は、資金・資材・実験施設・技術的な「ノウハウ」といった、このような重要な開発が成立するために不可欠な要素次第である。後者（ノウハウ）はドイツ人科学者によって供給されているとされている。当本部所属のドイツ人科学者たちによれば、スペインで活動している重要なドイツ人科学者はおらず、また本記事で言及されている人物にも心当たりがないとのことである。
3. したがって可能であれば、スペインで働いているとされるドイツ人科学者を特定する助けとなるような、氏名・資格その他の情報を入手する努力をすべきである。
4. 最近、Hq USAF, AC/AS-2からの情報報告において、9月にアラスカで発生した空飛ぶ円盤事件について簡単な言及があった。報告された近距離での目撃は、実際に報告された内容よりも詳細な観測結果をもたらさうはずであり、これも追跡調査が望まれる。
5. さらに、特に北米における、これまでのすべての空飛ぶ円盤事件のプロット（位置図化）作業の進捗について、当室に情報提供いただくよう要請する。キャロル博士がこれらの事件のプロット作業を行う予定と理解していたが、この取り組みについてそれ以上の連絡を受けていない。

H・M・マッコイ 大佐、航空隊
情報部長

⑭ 秘密区分「Secret」への格上げ要請

日付：1947年11月24日 宛先：合衆国空軍参謀総長 宛先：ジョージ・ギャレット・ジュニア中佐

差出：航空機材司令部 TSNAD-2B

件名：「空飛ぶ円盤」

1947年11月18日付の参照書簡（前号）に関連し、当該通信文書に「Secret（機密）」の区分を適切に表示・押印する措置を直ちに取るよう要請する。当該秘密指定番号は U-48983 である。

H・M・マッコイ 大佐、航空隊
情報部長

⑮ メアリー・L・ヘレン氏提供の写真について

日付：1947年12月5日 宛先：合衆国空軍参謀総長 宛先：情報部長
差出：第4空軍本部 情報部（A-2） ハミルトン基地、カリフォルニア

件名：空飛ぶ円盤

1. 同封の写真は、オレゴン州ポートランド、S.W.ビッドウェル通り1728番地在住のメアリー・L・ヘレンという、信頼性の高い情報源から当室に提供されたものである。同人によれば、これらの写真は1946年11月5日から12日の間、オレゴン州ジェファーソン付近で撮影されたもので、写真中の編隊状の物体は本人が実際に目撃した記憶はないが、空飛ぶ円盤である可能性を考えたとのことである。
2. 該当する物体は、各写真の空の部分に写っている。その痕跡の均一性から見て、撮影に使用されたカメラまたはフィルムが不良品であった可能性が示唆される。上記の期間、当該地域周辺での空飛ぶ円盤事件の報告は他に確認されていない。
3. ヘレン夫人はネガの返却を求めている。ご希望であれば、当室でネガを回収し、貴部署のご要望に応じて送付する。

ドナルド・L・スプリンガー 中佐、アメリカ空軍
情報部長（A-2）

⑯ ⑮への回答（フィルムの欠陥と判断、追加調査不要）

日付：1947年12月18日 宛先：第4空軍司令官 ハミルトン基地、カリフォルニア 差出：合衆国空軍本部

件名：空飛ぶ円盤（1st Ind）

1. 基本書簡に添付された写真に写っている痕跡は、フィルム・印画紙またはカメラの欠陥によるものであり、「空飛ぶ円盤」の写真ではないと考えられる。
2. 本件についてこれ以上の調査は行わないよう要請する。

ダグラス・W・アイズマン 中佐、アメリカ空軍
執行官 航空情報要求課 情報部

⑰ クレイギー少将との会談確認と、これまでの報告書の送付

日付：1947年12月19日 宛先：合衆国空軍参謀総長 宛先：研究開発担当部長 L・C・クレイギー少将
差出：航空機材司令部 マッコイ大佐（情報部長）

件名：空飛ぶ円盤

1. 1947年12月9日に行われた、署名者とL・C・クレイギー少将との最近の会談内容を確認する意味で、空飛ぶ円盤に関する当司令部作成の報告書の写しを、下記のとおり添付する。
2. これらの書簡に対する空軍本部の所見は、当司令部にはこれまで届いていない。資格を有する観測者からの継続的かつ最近の報告により、この現象は引き続き航空機材司令部本部にとって懸念事項であり続けている。当司令部の情報部は、入手可能なすべての報告の収集と分析を継続中である。

司令官の命により

H・M・マッコイ 大佐、アメリカ空軍
情報部長

添付2点：1947年9月23日付「AMC空飛ぶ円盤に関する見解」の写し、1947年9月24日付「空飛ぶ円盤」の写し

⑱ 調査体制の正式な設立（プロジェクト「SIGN」の起源）

日付：1947年12月30日 宛先：航空機材司令部司令官 宛先：TSDIN 差出：陸軍参謀総長付 クック大佐

件名：空飛ぶ円盤 **〔最重要文書：後の「プロジェクト・サイン（Project SIGN）」設立の起源となった指令〕**

1. 貴部署から当本部宛の、上記件名に関する3通の覚書を参照する。
2. 大気中における目撃・現象の報告を無視しないことが空軍の方針である。この種の情報を収集・照合・評価し、それに基づいて対応することも空軍の任務の一部であると認識している。
3. この方針を実行に移すにあたり、航空機材司令部が一つの計画（プロジェクト）を設置することを求める。その目的は、国家の安全保障上の懸念となりうる大気中の目撃・現象に関するあらゆる情報を収集・照合・評価し、関係する政府機関および契約業者に配布することである。航空機材司令部の管轄範囲外で対応が必要な場合は、適切な勧告を当本部宛に送付するものとする。
4. 本計画の活動には、添付資料1で勧告されているとおりの初期報告の作成・配布、およびそれ以降は四半期ごとの報告発行を含めることが提案される。必要が生じた場合は、より頻繁な間隔で補足報告を発行するものとする。本計画には優先度「2A」が付与され、秘密区分は「制限扱い（Restricted）」、コードネームは「SIGN（サイン）」とする。制限扱いより高い区分のデータを本計画が扱う場合は、そのデータを相応に区分すること。添付資料1で勧告されているとおり、データの完全な相互交換を実施するべきである。

参謀総長の命により
(署名：判読困難)

以上18文書は、1947年に発生した一連の「空飛ぶ円盤」目撃報告と、それに対する米陸軍航空軍・航空機材司令部の内部対応記録である。特に⑤（1947年9月23日付、N.F.トワイニング中将署名の「AMC空飛ぶ円盤に関する見解」）は、いわゆる「トワイニング・レター」として広く知られる、米軍が現象の実在性を公式に認めた最初期の文書の一つであり、⑱（1947年12月30日付）は、この現象を継続的に調査する体制「プロジェクト・サイン」の設立指令にあたる。